

2 地域の概要

1) 地域

上北地域は青森県の東南部に位置し、東西に約 52 km、南北に約 81 km の広さを持ち、十和田市、三沢市、上北郡（野辺地町、七戸町、六戸町、横浜町、東北町、六ヶ所村、おいらせ町）の 2 市 6 町 1 村で構成されている。総面積は約 2,126 km² で、県全体 9,645 km² の 22%、人口は約 185 千人で、県人口（約 1,176 千人）の約 16% を占めている。（全国都道府県市区町村別面積調（国土地理院、令和 7 年 1 月 1 日現在）及び住民基本台帳月報（令和 7 年 4 月 1 日現在）より）

2) 立地条件

地形は太平洋と陸奥湾及び八甲田山系に囲まれたほぼ平坦な台地で、地域の南側に十和田湖を水源とする奥入瀬川が西から東に流れ、太平洋に達している。

また、北部太平洋側は低地が多く、小川原湖等の湖沼が点在している。

3) 気象条件

夏季の 6 月から 8 月にかけて「やませ」と呼ばれる偏東風が吹き、低温多湿及び日照不足となつてしばしば農作物に冷害をもたらすことがある。

また、冬期の 11 月から 3 月までは北西の季節風が強く、山間部では積雪が多いが、平野部は太平洋側の特徴を示し、乾燥して比較的積雪は少ない。

4) 社会的状況

当地域は従来から農業を基幹産業として発展し、本県農業の主要な位置を占めている。

また、太平洋及び陸奥湾、小川原湖等の沿岸では漁業も営まれている。

更に、全国的にも有名な十和田湖をはじめとした観光資源を有し、それらに接続する交通体系の整備も進められている。平成 22 年 12 月 4 日には東北新幹線が全線開業し、本県観光ルートの中核地域として大きな役割を果たしている。

管内概略図の解説

- A 日本最古の常夜燈……………文政十年（1827）藩政時代、南部藩の商港として使われた野辺地湊に、船の出入りの安全を願って港役所の前、野辺地湊の先端に常夜燈を建立した。
- B 小川原湖畔の姉妹姫像……………約千三百年前に都から姿を消した父を追い掛けた玉代姫と勝世姫の姉妹が、父の死を知って絶望し、湖に身を投げたという小川原湖伝説の姉妹像。
- C 稲生川……………新渡戸傳が三本木原（現在の十和田市周辺）に十和田湖から農業用水を引くために 1855 年に着工した農業用水路。2014 年に国際かんがい排水委員会により世界かんがい施設遺産に認定された。
- D 奥入瀬溪流……………十和田湖から流れ出し、子の口から鳶川と合流するまでの 14.2km。溪流沿いには遊歩道が整備され、清冽な溪流と樹木が四季ごとに様々な表情を見せる。大小様々な滝が連続して現れるため「瀑布街道」とも呼ばれる。
- E 十和田湖……………青森県と秋田県の県境にまたがり、標高 400m に位置する水深 327m のカルデラ湖。クルミを半分に割った断面図のような形をしており、これは二度にわたって発生した火山の噴火によると考えられている。
- F 自由の女神像……………青森県上北郡おいらせ町いちょう公園内にあり、米国、ニューヨークと同緯度で結ばれていることから、北緯 40 度 40 分の「4」の数字にこだわり、本家の 4 分の 1 の大きさに建立された。